

NPO 法人アルペなんみんセンター

2022 年度 事業報告書

(2022 年 4 月 1 日～ 2023 年 3 月 31 日)

はじめに

世界で避難を強いられた人々の数は、ミャンマー、アフガニスタン等の紛争に加え、ウクライナ危機で急増し、初めて1億人を超えた。日本に保護を求める者も増加し、2022年に日本で難民と認定された人は過去最大の202人となり、また不認定ながら人道的な配慮を理由に在留を認められる件数も増えている。しかし、依然として十分に保護を受けられない難民が大多数で、路上生活となる人も多い。こうした中、難民認定申請者を受け入れる難民シェルターとして設立された当センターでは、これまでに幼い子どもを抱える家族・母子世帯を含む20カ国52人を受け入れてきた。

難民・避難民に寄り添う取り組みは、地域社会に受け入れられ、様々な交流を通じた相互理解が進んでいる。食事づくり、役所等への同行などを担う住民ボランティアも増え、異なる背景・属性を抱えた人々と地域住民がともに喜び、支えあうコミュニティとなっている。共生社会の一員である難民・避難民との交流や協働の中で、痛みや苦悩を分かち合い、互いに励ましあい、喜びを分かち合う経験をより多くの方にしていただくことは、包摂的な共生社会の構築の一助となる。

2022年2月のロシアのウクライナ侵攻によって、2000万人以上の難民が発生した。日本にも、2,218人(2023年5月10日現在)が避難してきている。当センターでも2022年4月16日から1組の夫妻を受け入れた。その後、住宅に窮するウクライナ人9人を受け入れた。

来日したウクライナ避難者が抱えるニーズは多岐にわたり、現地で受けた心身への負荷からの回復、生活基盤整備、日本社会への順応に向けたつながり支援、語学支援のほか、生活費・医療費等の経済的支援などがある。これまでに在留資格取得、住民登録等の行政手続きを済ませ、医療支援、日本語学習支援、地域交流などを実施した。

2022年11月、神奈川県弁護士会人権賞を受賞した。受賞理由として「スタッフが常駐のもと難民が安心して共同生活を送ることができるシェルターを提供しており、このような施設は日本ではアルペなんみんセンターのみである」と高い評価を受けた。今後とも、受け入れた難民、避難民一人ひとりの人生に寄り添った活動を続けていく所存である。

1 難民への定住支援事業

(1) 緊急シェルターの提供

緊急シェルターの提供	2022 年度実績	実人数 32 人	滞在日数	7,698 泊
	2021 年度実績	実人数 20 人	滞在日数	3,519 泊
	2020 年度実績	実人数 15 人	滞在日数	1,857 泊

* 2022 年度 新規入所 21 人（2020 年から継続 5 人、2021 年度から継続 6 人）

* 平均滞在日数 240 日間（2020 年からの継続含む）

* 最長滞在日数 901 日間（2020 年からの継続含む）

* 最短滞在日数 4 日間

* 2023 年 3 月 31 日現在入居者 6 カ国 15 名

難民が安全で安心できる住居の提供

施設内には 30 の個室がある。入居者の通信手段を確保するため、スマートフォンを提供し、施設内で常時 Wi-Fi が接続可能。



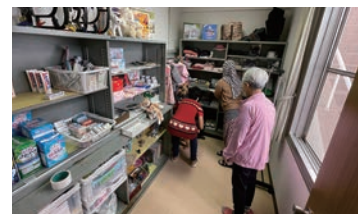
食事の提供

1 日 3 食の温かい食事を提供した。調理担当スタッフを中心に多くの調理ボランティアに支えられている。支援者、近隣の農家や青果店、フードバンク、鎌倉市、鎌倉市社会福祉協議会などからも食材提供を受けている。



衣料・日用品

地域の市民グループや個人から中古・新品の衣料や日用品の寄贈を受けている。寄贈品の整理や配布は地域のボランティアに支えられている。



(2) 医療の提供

入居者の多くは、在留資格の関係で健康保険に加入できず、医療費は全額自己負担。必要に応じて地域の医療機関での診療にスタッフが同行するなどのサポートを行っている。医療費は、当センターに寄せられる寄付で対応している。



医師の往診、医療相談会

週 1 回、地元の医師がボランティアで往診してくださっている。

また、月 1 回、2 名の医師と 1 名の鍼灸師による医療相談、マッサージを実施した。

脳梗塞で倒れた入居者の緊急支援

2022 年 9 月、入居者が脳梗塞で救急搬送された。無保険で高額な医療費が予想されたため、広く支援を呼びかけた。個人 / 団体から 214 件 6,171,555 円の寄付が寄せられた。済生会東神奈川リハビリテーション病院、済生会神奈川県病院で 3 ヶ月間リハビリテーション支援をいただき、支え歩きができるまでに回復した。本人と家族の希望で 2023 年 1 月に帰国した。



(3) 日本語学習支援

日本における将来的な自立のため、入居者のニーズに応じて日本語の個人レッスンを実施した。



(4) アルペファーム（農作業）

敷地内の畑で、毎週土曜日に農作業を行った。近隣住民が中心となり、入居者と交流しながら野菜を育てた。作業には子どもたちも参加し、ふれあいの場となった。春と秋にはみんなで収穫祭を行った。



(5) 地域のイベントへの参加

- ・ 2022/05 第54回慈善茶会（鎌倉青年会議所主催）
- ・ 2022/05 みんなで鎌倉平和パレード
- ・ 2022/06 観音様のつどい（世界難民の日）
- ・ 2022/09 ピースデー鎌倉
- ・ 2022/10 カトリック横浜教区一粒会大会
- ・ 2022/10 第64回鎌倉市民合唱祭
- ・ 2022/11 かまくら国際交流フェスティバル
- ・ 2023/01 アムネスティ鎌倉グループ映画会



(6) 近隣の居場所プログラム

月一回開催される近隣の地域食堂「ふらっとカフェ in 二階堂」に定期的に参加した。



(7) ウクライナ避難民支援

ウクライナでロシアによる軍事行動が2022年2月24日に開始され、多くの国内避難民、難民が発生した。4月5日にウクライナからの避難民20人を乗せた政府専用機が日本に到着した。

4月9日に鎌倉在住のウクライナ人から、ウクライナから両親を避難させたいと当センターに相談があり、様々な方々の支援でわずか9日間で来日することができた。

7月より公益財団法人かながわ国際交流財団のかながわ民際協力基金・緊急支援事業「ウクライナ避難者への緊急支援・定住支援」による助成を受けながら、下記の支援を行った。

- ・ シェルター提供(住まい、食事、衣料、生活必要物資支援)
- ・ 在留資格取得、住民登録、健康保険等手続き
- ・ 銀行口座開設
- ・ 医療支援(精神的な支援も含む)
- ・ 日本語学習
- ・ 子どもの教育支援
- ・ 生活順応支援(ゴミ出し他、自治会・近所づきあい、生活ルール等)
- ・ 地域コミュニティとの交流
- ・ 同国人との交流、イベント開催
- ・ 就労支援
- ・ 住宅探し(公営住宅、UR、民間賃貸住宅等)
- ・ 引っ越し手続き等
- ・ 通訳同行支援
- ・ 身元保証人の提供



全国のラーメンファンから聖地と呼ばれている神奈川県湯河原町の名店「らぁ麺 飯田商店」が出張出店！



2022/12 クリスマス交流会



2022/12 クリスマス交流会

(8) アフガニスタン難民支援

アフガニスタンで再びイスラム主義勢力タリバンが実権を握った2021年8月以来、混乱と迫害から逃れるため、800人以上のアフガニスタン人が日本に逃れてきた。関係諸団体と連携をとりながら、必要な支援を行った。

(9) 小金井センター開設準備

カトリック聖霊会から小金井聖霊修道院(東京都小金井市)の活用についての打診があり、新規シェルターの検討を進めた。

2 情報発信事業

(1) 国際理解教育事業（なんみんセミナー、オープンデー）

なんみんセミナー（オンラインを含む）を全国の小中高、大学、近隣施設で実施した。また、施設見学や難民との交流の機会を提供することを目的にオープンデーを開催した。

2022年度 実績	難民セミナー	55回開催	3,225人	参加
	オープンデー	17回開催	230人	参加
	合計	72回開催	3,455人	参加

2021年度 実績	難民セミナー	20回開催	2,461人	参加
	オープンデー	3回開催	36人	参加
	合計	23回開催	2,497人	参加

2020年度 実績	難民セミナー	3回開催	59人	参加
-----------	--------	------	-----	----



2022/6 世界難民の日 大船観音



2022/10 鎌倉市内の小学校の総合学習授業



2022/10 医療ソーシャルワーカーの研修会



2023/3 JCAP 研修会

(2) ニュースレター、ホームページ、SNS 等での情報発信

1) ニュースレター「アルペ通信」

当団体の活動を広く伝えるため、ニュースレター「アルペ通信 (A4 4 ページ)」を発行、配布した。

第4号 (2022年 8月、11,500部)

第5号 (2022年 12月、26,500部)



2) ニュースレター「アルペだより」

当団体の日常の活動を広く伝えるため、ニュースレター「アルペだより (A4 1 ページ)」を発行した。

No 3 (2022年 5月)、No 4 (2022年 7月)

No 5 (2022年 9月)、No 6 (2022年 11月)

No 7 (2023年 2月)



3) ホームページ

当団体のホームページにて活動について紹介した。また、イベントの募集と報告を随時行った。

4) インスタグラム

難民の置かれている状況等の情報を発信した。

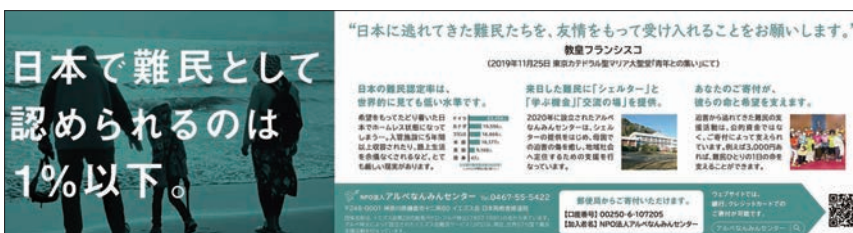


5) SNS 配信、YouTube チャンネル

Facebook ページにて当団体の活動の最新情報を発信した。YouTube「アルペチャンネル」で動画を配信した。

6) パンフレット 活動紹介パンフレットをリニューアルし、44,000部発行した。

7) 新聞広告 カトリック新聞に広告を掲載した。



(4) メディア掲載

多くのメディアから取材を受け、難民の状況や当センターの活動を紹介する機会を得られた。

【新聞 13件】

鎌倉の「シェルター」ウクライナ避難民受け入れ	2022/05/05 神奈川新聞
ウクライナの「優しい味」に笑顔 郷土料理で平和に思いをさせ	2022/05/24 東京新聞
戸惑いつつ懸命に 神奈川で新生活を送るウクライナ避難民	2022/05/25 朝日新聞
難民認定し「居場所」をください	2022/06/19 朝日中高生新聞
働きたくても かべ	2022/06/19 朝日小学生新聞
私の争点、聞いて 参院選神奈川選挙区	2022/06/23 朝日新聞
難民と被災地映画を支援	2022/06/24 タウンニュース
ウクライナ避難民「平和に！」	2022/07/01 タウンニュース
避難民、飯田商店のラーメンに「おいしい」 鎌倉で交流会	2022/11/17 神奈川新聞
アルペなんみんセンター神奈川県弁護士会人権賞を受賞	2022/11/27 カトリック新聞
【ひとすじ】人生の選択をサポート 鎌倉で難民支援に奔走	2023/01/26 神奈川新聞
「難民」支援、草の根で広がる	2023/02/01 日本経済新聞
難民は恩恵もたらす存在「入管法を考える」支援の現場から	2023/03/31 クリスチャン新聞

【テレビ 5件】

LIve ニュース鎌倉「アルペなんみんセンター紹介」	2022/04/08 J:COM 鎌倉
急増「デジタル地域通貨」住民同士の交流の機会が飛躍的にUP	2022/05/04 テレビ朝日
鎌倉の大仏で知られる高德院で茶会 収益は人道支援に	2022/05/15 NHK ニュース
鎌倉大仏の寺で世界平和を願って茶会	2022/05/19 NHK ニュース
UNHCR関係者が鎌倉市訪問 難民など支援の施設を視察	2023/03/25 NHK ニュース

【ネットニュース 6件】

「自分の人生を生きてほしい」一行き場のない難民の支援に奔走する、ある女子大生の青春	2022/08/18 nippon.com
幸せとは、人とつながり生きること。日本にいる難民たちの「働きたい」という切実さ	2022/11/28 Yahoo! SDGs
『ボーダー 移民と難民』私たちの内なる境界を考える	2022/12/14 HONZ
世界各国からの難民が「日本一のラーメン」に舌鼓！【前編】	2022/12/17 Do well by doing good
難民支援に乗り出した「らぁ麺 飯田商店」店主が見据えるSDGs【後編】	2022/12/23 Do well by doing good
Grassroots refugee support grows in Japan amid tough asylum policy	2023/02/06 NIKKEI Asia

【雑誌 2件】

今、難民問題に向き合う	2022/06 機関誌フィランソロピー
ウクライナ「避難民」受入れを難民受け入れのスタンダードに	2022/10 情報誌M ネット

【ラジオ 1件】

世界難民の日に寄せて	2022/06 鎌倉 FM
------------	---------------

ウクライナ「優しい味」に笑顔

郷土料理で平和に思いはせ

田舎の味を「優しい味」として、日本に届けてほしい。ウクライナから避難してきた子どもたちが、日本の郷土料理を食べて笑顔を見せる。日本では「優しい味」として知られている郷土料理を、ウクライナから避難してきた子どもたちに届けてほしいという思いで、鎌倉市で「優しい味」プロジェクトがスタートした。

このプロジェクトは、鎌倉市にある「アルベナムみんセンター」が中心となり、市内の飲食店やボランティアが協力して実施されている。現在は、うどん、そば、お味噌汁、お茶漬けなど、日本人が好む郷土料理を中心に提供している。子どもたちは、日本の味を堪能するとともに、日本の文化や生活についても学ぶ機会を得ている。

「優しい味」プロジェクトの代表を務める鎌倉市立保健福祉センターの職員は、「子どもたちが日本の味を食べて笑顔を見ることが、私たちにとっても大きな励みです。今後も、子どもたちのために、さらなる取り組みを進めていきたいと考えています」と話している。

鎌倉の避難女性 振る舞う

「優しい味」プロジェクトの活動を通じて、鎌倉市に避難してきた女性たちも、日本の文化や生活に少しずつ慣れていく。彼女たちは、日本の味を堪能するとともに、日本の文化や生活についても学ぶ機会を得ている。また、彼女たちは、日本の味を堪能するとともに、日本の文化や生活についても学ぶ機会を得ている。

2022/05 東京新聞

20日は「世界難民の日」

日本は受け入れに消極的 難民認定し「居場所」をください

6月20日は国連が定めた「世界難民の日」です。難民は、人種や宗教、政治的な思想などが理由で自由に暮らすのが難しくなり、他の国に逃れた人たちのことです。日本は難民の受け入れに積極的で、法的上の「難民」と認められていない人が多くいます。5人、チャンマー人のとみさん(40代)もその一人です。(近藤理恵)

紛争や迫害などで家を離れた人 (2021年)	約8930万人
うち国内避難民・約5320万人	難民・約2710万人

日本で難民認定を受けた人 (2021年)	74人
うち32人がチャンマー人	

日本で難民認定申請を行った外国人 (2021年)	2413人
うち700人がウクライナ人	

日本の難民認定率 (2021年)	0.7%
------------------	------

他国の難民認定率 (2020年)	
ドイツ	41.7%
カナダ	55.2%
アメリカ	25.7%

政治不安続くミャンマーからきたミミさん 飯放免では人間らしい生活できない

猛勉強し介護職員に 在留資格も

ミミさんは、ミャンマーから来た女性です。彼女は、政治不安が続くミャンマーから逃れてきた難民です。日本に到着してからは、猛勉強して介護職員に就き、在留資格も取得しました。彼女は、飯放免では人間らしい生活できないと感じています。

「日本に来てからは、猛勉強して介護職員に就きました。在留資格も取得しました。飯放免では人間らしい生活できないと感じています。政治不安が続くミャンマーから来た難民は、日本に到着してからは、猛勉強して介護職員に就き、在留資格も取得しました。飯放免では人間らしい生活できないと感じています。」

日本語や就労課題続々

「地域での活躍の場必要」

避難申請中の外国人の受け入れを行っている「アルベナムみんセンター」(鎌倉市十二所)が、新たにウクライナ避難民の夫婦を受け入れた。同施設は鎌倉市の静かな山あいに立つ国内最大級の「シェルター」。同施設を運営するNPO法人の有川憲治事務局長(59)は「2人か地域での役割を見つけてお手伝いができれば」と話している。(鈴木 崇宏)

「日本語や就労課題続々」というのが、避難民の現状。日本語が話せない、就労の機会が少ないなど、さまざまな課題を抱えている。地域での活躍の場が必要とされている。

2022/05 神奈川新聞

人生の選択をサポート

鎌倉で難民支援に奔走

人生の選択をサポート。鎌倉で難民支援に奔走。有川憲治事務局長は、難民の生活を支えるために、さまざまな取り組みを行っています。地域での活躍の場を創出し、生活の安定を図っています。

2023/01 神奈川新聞

3 調査・研究事業

(1) 「鎌倉なんみん共生フォーラム」設立に向けた取り組み

地域における難民の受け入れと支援に関する連携をはかるため、市民グループ、社会福祉協議会、社会福祉施設、市議会議員、メディア関係者などが集い、学習会を行った。

基調講演はオンラインでも配信し、全国から80名が参加した。最後に、鎌倉なんみん共生フォーラムの設立に向けて意見交換を行った。



日本の難民受け入れ40年を振り返る ～インドシナ難民からウクライナ避難民まで～

2022年11月18日(木) 14:00～16:00 カトリック雪ノ下教会レベックホール

講師 阿部浩己氏(明治学院大学国際学部教授)

(2) 地域通貨「クルッポ」を活用した地域とのつながり

鎌倉市の企業「面白法人カヤック」が運営する地域通貨「クルッポ」の加盟スポットとして、クルッポを使って体験できるプログラムを提供した。また、Instagramへの感想や質問を送った方にクルッポを差し上げるなど、双方向のコミュニケーション手段として活用した。



(3) 国内外の難民支援団体とのネットワーク

- ・NPO 法人 移住者と連帯する全国ネットワーク
- ・NPO 法人 なんみんフォーラムへの参加・連携

国内の難民移民支援ネットワーク団体に参加し、日本における難民の諸問題に関する情報収集および関係団体との連携強化に努めた。



入管法改悪反対集会に参加
2022年10月参議院議員会館

- ・JCAP Migrants and Refugees Network への参加、連携

アジア地域の移民難民支援団体のネットワークの会議に定期的に参加し、情報交換、共有を行った。2023年3月に日本で連絡会議が行われ、当センターを訪問した参加者に日本の移民・難民が置かれている状況を報告した。



JCAP Migrants and Refugees Network 参加者と一緒に
2023年3月アルペなんみんセンター

4 その他

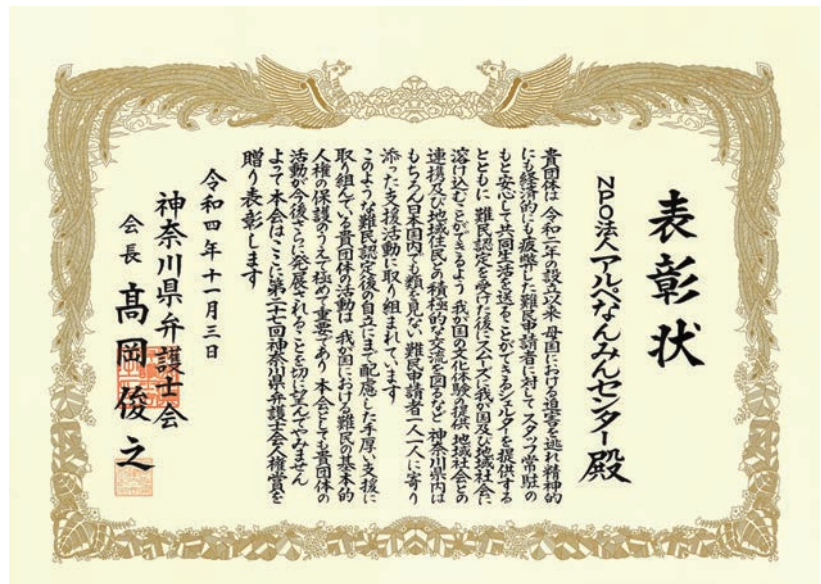
(1) アルペのストーリーの書籍化

当センターで取材を行ったノンフィクション作家の佐々涼子さんが、日本の難民・移民に関する本を出版した。センターの様子や難民の想いも紹介された。

ボーダー 移民と難民 佐々 涼子 著
2022年11月25日発売 定価：1,800円＋税
発行：集英社インターナショナル 発売：集英社



(2) 神奈川県弁護士会人権賞を受賞



(3) 様々なご支援のかたち

2022年度はさらに多くの個人・団体からご支援をいただいた。当センター支援を目的にチャリティコンサートなどのイベントを企画し、収益金をご寄付いただく機会も増えた。



12月 ASP 湘南主催のクリスマスチャリティコンサート



4月 鎌倉混声合唱団ムジカおさらぎの定期(チャリティ)演奏会、寄付金の贈呈式

